

平成28年度 第3回 総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成29年3月15日(水) 午前10:00～12:00

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬 哲
同職務代理 田中妙子
委員 西條三香
委員 小林輝紀

4 出席した事務局職員

教育部長 栗岩康彦
文化振興部長 石田一彦
子ども育成課長 荻原賢二
学校教育係長 丸山真央
学校教育係 宮沢麻由

5 会議の経過及び発言

1 開 会

(荻原課長)

平成28年度第3回の総合教育会議を始めます。

学びの改革基本構想案が示されました。

それを受けまして、下高井農林高校の大塚校長先生にお越しいただきまして、下高井農林高校の現状と課題ということでお話をいただくこととなります。

2 あいさつ

(足立市長)

今日は下高井農林高校の大塚校長先生に、年度末の大変お忙しい中お越しいただいております。

大塚先生ありがとうございます。

本日は地域の実業高校であります下高井農林高校の様々な活動や実情等をお話いただければありがたいと思います。

私も、先日、なちゅらで開催された農林高校生の研究発表を聞きに行きました。

時間の関係で全部は聞けませんでした。非常に現場に即した課題に、生徒のみなさんが非常に突っ込んだ研究を行っておりまして、レベルとしても高い研究をされていて、大きな成果を出されていると感じました。地域の具体的な課題によく取り組んでいる生徒を目にしまして、校長先生はじめ先生方のご努力にも感謝申し上げたいと思います。

特に私たちは、この地域の子ども達の、いわゆる次世代の育成という大きな課題があるわけでごさいます、義務教育と次の段階の高校教育という切り離せないステップについて、お話を伺えれば大変ありがたいと思っております。よろしくお願ひします。

(荻原課長)

それでは大塚校長先生から下高井農林高校の現状と課題についてお話をいただければと思います。よろしくお願ひします。

(大塚校長)

日頃、飯山市の学校教育活動にお力添えありがとうございます。

今、足立市長からお話がありましたが、本年度、なちゅらで発表をさせていただきました。

例年校内で行っていたことを、あのような場で生徒が自らのことを発表するということは、農林高校を地域の方に知っていただくことはもちろん、生徒自身にとっても自己肯定感を高める機会になったと思っております。

農林高校の実情についてはこれから説明させていただきますが、高校の二期再編を考えた際に、第一通学区では農林高校をどうしていくかということは避けて通れないところであろうと思っております。

.....大塚校長との懇談内容 (要約).....

○下高井農林高校は、木島平村にある高校ですが、飯山市出身の生徒が約6割を占め、栄村・野沢温泉村・中野市を含めた旧第一通学区出身では、生徒の約9割を占める状況。

○現在、2学科8コース制

アグリサービス科 (植物科学・動物科学・食品化学・食文化)

グリーンデザイン科 (森林活用・地域資源活用・草花活用・園芸福祉)

○平成28年11月、創立110周年

○農業クラブの活動の活性化...県大会 (プロジェクト発表で優秀賞)

木島平村も含めた地域連携事業、地域に根付く農林祭

.....

(荻原課長)

それでは、県教委が示した高校再編の今後の日程について説明させていただきます。

資料3として、県教委作成の学びの改革基本構想(案)をお配りさせていただきました。22ページをご覧ください。

今後の検討方法ということで、「旧12通学区単位での検討を基本としながら、より広域での検討を視野に入れたり、地理的特性による高校の役割の違いを考慮しながら検討を進める」と。「教育関係者や、地域関係者、学校関係者等をはじめ、広く県民の声を聞きながら検討を進める。」「特に専門学校に関しては産業界の動向や県全体の人材育成方針等の観点からも検討を進める。」「若手教員や高校生との意見交換を行う」ということが進め方として示されております。

23ページには検討スケジュールとして、「29年度に地域やPTA、中学校長会、自治体・産業界・大学関係者等、高校教育に関連する方々との懇談・意見交換をしながら実施方針を策定する」という形になりますので、29年度には、県教委から何らかのアクションが起こされるかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(足立市長)

それでは時間の関係もありますので次の教育大綱の進捗状況をお願いします。

(荻原課長)

それでは、教育大綱の進捗状況についてですが、28年度末数値はこれからになりますので、本日の数値は今後変更となるものも含まれてございます。

・「夢に向かい、自分の道を切り開き、たくましく生きる力を育てる教育の実践（未来への自由な選択を可能とする学力・体力の向上）」として、学力向上、体力向上、コミュニティスクールでの講演会、児童センター整備、年間読書冊数、外部講師による探求授業実践校、都会の学校等の交流等について説明。

・「ふるさとを知り、ふるさとを愛する、地域に根ざした教育の実践」として、総合学習の時間、ふるさと検定受験者数、ふるさと館利用児童数、コミュニティスクール校、家庭学習の確立、地産地消による食育推進校等について説明。

・「国際感覚を養う（外国の子ども達との交流と英語コミュニケーション能力の育成）」として、交流事業、英検受験推進、ICT導入について説明。

・「個性や多様性を尊重し、強制社会をつくるための豊かな人間性を育てる教育の実践」として不登校数、特別支援教育の充実、人権教育、平和学習の実践等について説明。

・「家庭・学校が連携して教育力を高め、地域に学ぶ生涯学習の実践」として、雪国大学の開催、ふるさと学習文教ゾーンへの利用者数、スポーツツーリズム関連等について説明。

なお、今年度から全国大会への出場選手に対しての奨励金制度を設けました。簡単でございますが以上でございます。

(教育長)

まだ途中経過でございますけども、特に英検3級については受験して合格した子どもたちだけで、実際、先生が3級の力があるとみなしている生徒を含めれば、このパーセンテージはもっとあがりますが、表は実際受験した子どもたちだけの数字です。平成29年度は市が英検の検定料を半額補助しますので、来年度の数字はもう少し上がると思ひます。

(足立市長)

目標を持って、みんなで受験したらよいのでは。

英語能力を高めてほしいということですね。

全国学力テストは、成果がでてきているので、年2回、前の結果を見ながらチェックしながら次の学習にも活かしていくということで。

(教育長)

4月に、28年度2回実施しての結果がでますので、それをみて報告ができると思います。

(足立市長)

この関係で何かございますか。

(田中職代)

質問がいくつかありまして、説明していただいたかもしれないのですが。

重点項目の「外部人材の活用校、外部講師による探求授業実践校の数値」について、ここであいう探求授業実践校というのは、どこを指しているのでしょうか。

(荻原課長)

たとえばコミュニティスクールのような授業以外では、それぞれの学校で行っている部分ですが、探求授業という項目なので、秋津小だと米作りから販売までという形の授業であったり、秋津の未来というような移住定住を考えながら探求していくというように行われている授業です。各学校実施していますが、一部の学校では探求という表現のために報告が上がってきていないと思われま。

(田中職代)

今、お聞きすると総合的な学習の時間の内容ですよ。

そうすると、中学も含め、みんな実施しているのではないかと思うのですが。

(荻原課長)

この「探求」という表現がいいのかどうかという部分がありますね。

もう少し捉え方を変えるべきかな、という感じがいたします。

(田中職代)

総合的な学習の時間というのは、ほぼ探求的な内容だと思いますので、いろんな外部講師、地域講師にきていただいて、いろいろな研究をしたり、実践的、体験的なことを行ったりしておりますので、そのあたりがどうかと思いました。

それから「ふるさとの素晴らしさを学び継承する郷土学習の実践」、これとか一番上の「総合学習」、ここの数値が入っていないのは、まだ調査が終わっていないからということでもよろしいでしょうか。

(荻原課長)

はい。今後、年度末の数値がでてきますので、数値が入るようになります。

(教育長)

今、田中職代が話されたように、幅広く捉えて数字をまた見直してみて。

(荻原課長)

そうですね。

みんな総合的な学習の中で「地域を学ぶ」というようなことは行っておりますので。

(田中職代)

それと、ふるさと検定の受験者数がでているのですが、成績は、どういう感じなんでしょう。

(荻原課長)

今、手元に資料がないのですが、成績の報告もいただいております。

(田中職代)

ふるさと検定の採点は、どこが行っているんですか。

(荻原課長)

ふるさと館の文化財係が行っています。

(田中職代)

学校の先生方が採点を行うということでは、ないということですね。

(荻原課長)

問題も文化財係が作成して、各学校の要請に応じて検定を行っているということです。

小学校は4年生以上を対象にしている、東小と戸狩小以外で実施しました。

中学については、城南が2年生、城北が1年生を対象にして実施したということです。

(田中職代)

わかりました。

それから、その下にありますコミュニティスクールのことですが、新聞か市報か、何で読んだのか忘れてしまったのですが、今度、コミュニティスクールの窓口を、市の教育委員会に置くというようなことをどこかで聞いたのですが。

(教育長)

それは、コーディネーターのことです。

(田中職代)

コーディネーターを市の職員が行うということですか。

(教育長)

外部講師について、学校から要請があった際に、ここに、こうした人材がいるということをお教える。自然体でまわしていくということを先生に行ってもらおう。

(田中職代)

教育懇談会で、どこかの地区で意見として出されましたが、それでこういった体制を整えたということですか。前からこうした計画があったということですか。

(教育長)

懇談会もキッカケにはなっているということです。

(田中職代)

そうなると、たとえば、これまではコミュニティスクールで外部講師をお願いするという場合、比較的、地域の人材、地元の方に来ていただくということが多かったと思いますが、こうした形になると全市レベルで交流するということになるのでしょうか。

(教育長)

外部講師や人材が豊富な地域はいいが、地域によっては困っているところもありますので、市全体でコミュニティスクールをバックアップしましょうということです。今までどおり地元にいるところはそれでよいと思います。

(田中職代)

多少の旅費もみてもらえるのでしょうか。

(教育長)

それは最低限で。保険はかけますが、それ以上のことはボランティアでやっていただきたい。これもいろいろ課題がありまして、自治体によっても1回くらいでやっているところもあるようには聞いていますが。

(荻原課長)

コミュニティスクールは、地域で地域の子どもたちを育てよう、ということですので、ボランティアというような位置づけでお願いしていきたいと思っている状況です。

(田中職代)

学校でのボランティア活動日数の数値は。

(荻原課長)

これについても、今後、調査により数値が入っていく予定です。

(田中職代)

小学校での子どもたちのボランティア活動ってどのような内容を考えているんですか。

(教育長)

具体的には公民館の青少年育成係が行っていて、一斉ごみ拾いに出ているので、そうした活動。また、それ以外にも学校独自で取り組んでいるものも入ってきます。

(田中職代)

結構、細かな数値を入れるようになってきているので、重複していいのか、よくないのか、どうなのかなと思いました。

(小林委員)

この数値の公開はどうなっているんですか。

(栗岩教育部長)

これをそのままというわけにはいかないが、公開は予定しています。

(小林委員)

スポーツの部分でも数値を見直していただければと思います。

私が把握している限り、シクロクロス参加者数はもっと多いので。

(足立市長)

ほかに委員さん、事務局から何かありますか。

なければこれで。

(荻原課長)

それでは、これで第三回総合教育会議を閉じたいと思います。